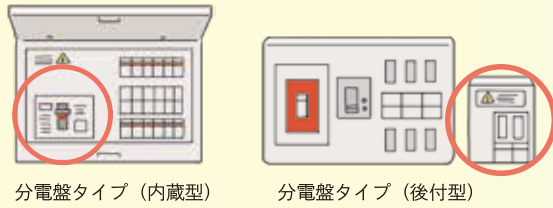


地震後の通電火災に注意

感震ブレーカーの設置が有効です。

通電火災とは、停電が復旧したときに起こる火災です。地震の揺れにより破損、燃えやすいものが接触している電化製品に、電気が通ることが出火の原因となっています。



避難するときは、必ずブレーカーを「切」にしてから家を出ましょう。感震ブレーカーは、地震の揺れを感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止めるので、通電火災の防止対策に有効です。

感震ブレーカー設置には補助制度があります。
※詳細は下欄をご確認ください。



補助制度のご案内

リフォームに合わせて手軽に利用できる制度です！

『まちの匠の知恵を活かした京都型耐震・防火リフォーム支援事業』

対象：昭和56年5月以前に建築された木造住宅（密集市街地を中心とした一部地域に限る。）

対象工事：軒裏・開口部・長屋の界壁・外壁の防火改修工事、感震ブレーカーの設置工事

※工事着手前に手続が必要です。その他、補助金額などの詳細は、**まちの匠事業**で検索

補助制度に関するご相談と受付窓口

京（みやこ）安心すまいセンター（075-744-1631）



是非、ご活用ください。

参考資料のご紹介

- 『町家で火事を出さない広げない』
発行：特定非営利活動法人 京町家再生研究会
(075-221-3340)
URL: <http://saisei.kyomachiya.net/publications/>
- 『住まい手向け既存伝統木造住宅の防火・耐震改修手引き』
発行：特定非営利活動法人 関西木造住宅文化研究会
(075-411-2730「悠計画研究所内」)
URL: http://karth.org/wp/wp-content/uploads/2014/10/A_sumaite_tebiki_100110.pdf
- 『既存伝統木造住宅の防火改修設計・施工マニュアル』、
『同マニュアル技術解説書』
発行：2と同じ 入手連絡先：(E-mail) info@karth.sakura.ne.jp
(URL) <http://karth.org/>

お役立ち情報

- 『土塗壁と化粧軒裏の防火マニュアル
～京町家様式で建築する～』
発行：京都府建築工業協同組合（075-802-1281）
※ホームページには公開されておりませんので、ご興味のある方は上記番号にご連絡をお願いいたします
- 『京町家でできること集』
発行：京都市都市計画局建築指導部建築審査課
(075-222-3616)
URL: <https://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000161706.html>
- 火災実験の様子など火災予防に関する動画を
京都市消防局のホームページで公開しています。
URL: <https://www.city.kyoto.lg.jp/shobo/page/0000198633.html>

京都市建築物安心安全実施計画推進会議

「京都市建築物安心安全実施計画」は、建築物における災害や事故から市民のいのちと暮らしを守るため、建築物の安全対策を総合的に実施しようとするものです。

本計画を推進するため、「京都市建築物安心安全実施計画推進会議」を構成し、市民、関係団体、行政の役割分担と協働の下、取組を進めています。



【構成団体】

（金融機関）
・一般社団法人 京都銀行協会
・京都府信用金庫協会
・独立行政法人 住宅金融支援機構（エネルギー関係）
・関西電力株式会社
・大阪ガス株式会社
・京都市 上下水道局（建築関係）
・一般社団法人 京都府建築士会
・一般社団法人 京都府建築士事務所協会
・一般社団法人 京都建築設計監理協会
・公益社団法人 日本建築家協会
近畿支部京都地域会

・京都府建設業協会京都支部
・一般社団法人 全国中小建設業協会 全中連京都（指定確認検査機関）
・株式会社 京都確認検査機構
・株式会社 I-PEC
・株式会社 確認検査機構アネックス
・日本 ERI 株式会社
・株式会社 西日本住宅評価センター（不動産流通）
・公益社団法人 京都府宅地建物取引業協会
・公益社団法人 全日本不動産協会 京都府本部

・一般社団法人 京都府不動産コンサルティング協会（消費者関係）
・特定非営利活動法人 コンシューマーズ京都
・京都市 文化市民局（警察）
・京都府 警察本部（消防）
・京都市 消防局（建築行政）
・京都府 建設交通部
・京都市 都市計画局

事務局

京都市都市計画局建築指導部建築安全推進課
〒604-8571
京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地
電話：(075) 222-3613 FAX：(075) 212-3657



京都市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



この印刷物が不要になれば「緑がみ」として古紙回収等へ！



京都市にお住まいの皆さまにご案内

あんあん通信

VOL.7

京都市建築物安心安全実施計画推進会議 会報

建物の生産から流通まで各段階に関わる機関や団体との連携の下、作成しています。

今日の暮らしを、明日も10年後もその先も

火災から、あなたの大切ないのちと暮らしを守るために、今お伝えしたいこと

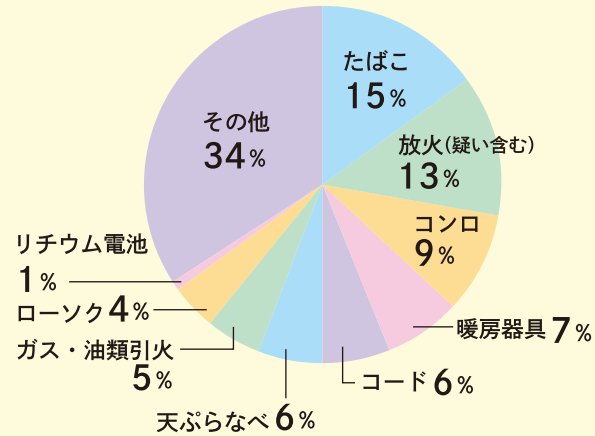


現代の暮らしに残る京都人の高い防災意識、見つめなおしてみませんか。

京都のまちに高密度に集積する京町家には、まちを火事から守るための知恵と工夫が蓄積されています。

火事を出さない

火災原因の多くは、失火や放火です。
これらは、少しの用心で防ぐことができます。



過去5年間（H26～30）の建物火災の発生原因【資料：京都市】

電気ストーブの取扱いに注意

- ストーブを点けたまま就寝しない
- ストーブの周りに燃えやすいものを置かない
- ストーブの上で洗濯物を干かさない



家の周りに燃えやすいものを置かない

- 古新聞や段ボールなど燃えやすいものは、物置や倉庫に入れて鍵を掛ける
- ゴミは決まった場所、決まった時間に出す
- 門扉やガレージのシャッターはきちんと閉めて、不審者の侵入を防ぐ
- 夜間には屋外の照明を点灯するなど、明るくする



放火火災は常に建物火災の原因の上位

H28	H29	H30
2位	1位	2位

放火火災の順位【資料：京都市】

火事に早く気づき、すぐに行動する

すぐに消火、すぐに避難、すぐに通報が大切です。

火事の発生を知らせてくれる、**住宅用火災警報器**の寿命は設置後おおむね10年です。定期的に適切な方法で点検し、異常がある場合はすぐに本体を交換しましょう。



これって危険!?
身の回りをチェックしてみましょう

間違った配線工事は火事の元

電気配線の工事は必ず専門業者に依頼しましょう。間違った工事が原因で、天井裏など普段目に付かない場所で突然出火する恐れがあります。気になる方はすぐにお近くの電気工事店に相談しましょう。

便利な電化製品、使い方次第で火の元に

- プラグは乾いた布で掃除する
- たこ足配線にしない
- コードを束ねて使用しない
- コードを家具などで踏みつけない



火事をもらわない、広げない

炎の燃え広がりを防ぐためには防火改修が有効です。

【天井・間仕切り壁】

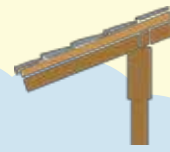
経年劣化等による壁の隙間をなくし、天井や壁の仕上げを燃えにくい仕様にする事で、隣の部屋や建物への炎の広がりを防ぎます。

木造住宅の防火改修には補助制度があります。
※詳細は裏面をご確認ください。



【軒裏】

軒裏を防火性能の高い仕様に変えることで、外部からの延焼を遅らせることができます。



【外壁】

外壁を防火性能の高い仕様に改修することによって、炎の燃え広がりを防ぎます。

【開口部】

通常のガラスは火災の炎にさらされると簡単に割れて、炎が燃え広がります。火に強いガラス等に改修することによって、防火性能を高めることができます。

【長屋の界壁】

長屋の住戸間の界壁を、防火性能が高く、屋根裏や天井裏まで達するように改修することによって、隣戸からの延焼を遅らせることができます。



コンロ周りはすっきりと

- 着衣着火に注意
- コンロの周りに燃えやすいものを置かない



天ぷら鍋から目を離さない

- 天ぷら鍋から目を離さない
※ガスコンロでもIHでも天ぷら鍋火災が起こる危険性があります!



ローソク、線香の火を見守る

- ローソクや線香の周りに燃えやすいものを置かない
- ローソク立ては安定したものを使う
- 使用後は確実に火を消す
- ローソクや線香に火を付けたまま、その場を離れない



吸い殻は確実に消火

- 火種が残った状態でゴミ箱に吸い殻を捨てない



たばこを燃えるものの近くで吸わない

- 吸い殻は確実に消火
- 寝たばこは絶対しない
- 灰皿は緑の広いものを使用し、水を入れておく



初期消火には**消火器**が最も有効（地域に設置されている消火器の場所を知っておくと安心）です。また、火を使う台所には、住宅用消火器を置いておくとう安心です。いざというとき、焦らず適切に消火器を使用できるよう、消火器の使い方を確認しておきましょう。消火器本体に使い方が記載されています。自力での消火が難しいと感じたら、迷わず避難を!

